

高等学校向け GIGA スクール構想リサーチ 2020

2021 年 3 月版

 for Education

goo.gle/gigaresearchhs

Society 5.0 時代を生きる生徒のために「1人1台環境」の実現を

- 文部科学省が第3次補正予算事業で高等学校における1人1台環境整備を後押し

文部科学省は2019年12月に「GIGAスクール構想」を発表し、令和の時代における学校のスタンダードとして、1人1台端末環境とクラウド活用を打ち出しました。これに伴い、地財措置に加えて、2,318億円の補正予算（2019年度）が組まれました。さらに、2020年度には当初5ヶ年計画にあったGIGAスクール構想を前倒しし、追加で2,292億円（2020年度）の補正予算を追加、そして、第3次補正予算ではGIGAスクール構想の拡充として高等学校段階の低所得世帯の生徒が利用する端末整備を支援し、教育の情報化をさらに後押ししています。

補助対象となる、生徒用端末（1台当たり4.5万円）、高速大容量の通信ネットワークという要件からも、「生徒1人ひとりがクラウド活用を前提とした学習環境」を持続的に実現しようとする意思が伺えます。高等学校における1人1台環境は、これまでの教科「情報」としての取り組みだけでなく、すべての教科での活用が必要になります。端末の選定においては、どのような場面でも活用が進められるような、安心安全な持ち帰りを可能にすることが重要です。



<https://bit.ly/2Nr29HU>

参考: 文部科学省ウェブサイト

「資料1 令和3年度初等中等教育局関係予算（案）について」

文部科学省が“高等学校における1人1台”を強力に推進

文部科学省では2020年5月、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用事例として高校の端末整備を明示し、自治体に向けて積極的な高校の端末整備への活用を促してきました。

さらには、義務教育において1人1台端末環境で学んだ生徒が、高校への進学後、同様の1人1台端末での学びが持続できるよう、高校での1人1台端末環境を1日でも早く整えるべく、取り組みが遅れている自治体に対し、1人1台端末環境整備へ向けた目標設定や整備計画の策定に組み込むよう働きかけるとともに、その進捗状況を随時把握し、必要に応じて措置を講ずるなど、自治体等と緊密に連携しながら環境整備へ取り組んでいます。これらの取り組みから、文部科学省が高等学校における1人1台を強力に推進していくという意思が伺えます。

また、高校の端末整備に対する大臣の考えとして、

「様々な財政事情があり、優先順位があるのはわかるが、高校生も学校によっては休校を余儀なくされる可能性もある。その際にオンラインで授業を支障なく遅れなく進めることができるようにするのが、まさにそれぞれの自治体の長の責任」であると述べています。



<https://bit.ly/3ljyyMW>

引用: 2021/1/26 文科委員会答弁

● 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金

令和2年度: 第1次補正予算 1兆円 | 第2次補正予算 2兆円 | 第3次補正予算 1兆5,000億円

第2次補正予算による端末1人1台整備を進めている県: 群馬県、秋田県、福井県

<http://bit.ly/2ODaWa3>

出典: 新型コロナウイルス感染症
対応地方創生臨時交付金

● 令和2年度第3次補正予算

国公立の高等学校段階の低所得世帯等の生徒が使用するPC端末整備を支援

<https://bit.ly/2Nr29HU>

出典: 文部科学省ウェブサイト

「資料1 令和3年度初等中等教育局
関係予算(案)について」

● 第3期教育振興計画地財措置

地財措置 1,805億円 (2018~2022年度)

<https://bit.ly/2PuKn6Y>

出典: 文部科学省ウェブサイト

「第3期教育振興基本計画を踏まえた、新学習指導要領実施
に向けての学校のICT環境整備の推進について(通知)」

小中高共通の標準仕様

Google Chrome OS

- OS: Google Chrome OS
- CPU: Intel Celeron 同等以上
- 2016 年 8 月以降に製品化されたもの
- ストレージ: 32 GB 以上
- メモリ: 4 GB 以上
- 画面: 9～14 インチ

現在販売されている多くの Chromebook が文科省が定める標準使用を満たしています

- より安価に調達できる US キーボード
キーボードについては、日本語キーボードではなく US キーボードにした場合、より安価に調達できる可能性がある。児童生徒にキーボード入力を指導する際の児童生徒・教師の情報活用能力や負担感を鑑みて US キーボードに変更しても良い。
- より安価に調達できる片側カメラ
カメラ機能については、片側カメラのみにした場合、より安価に調達できる可能性がある。学習活動における写真・動画撮影や、QR コードの読み取り等での運用方法について検討した上で、片側カメラに変更しても良い。

Microsoft Windows

- OS: Microsoft Windows 10 Pro 相当
- CPU: Intel Celeron 同等以上
- 2016 年 8 月以降に製品化されたもの
- ストレージ: 64 GB 以上
- メモリ: 4 GB 以上
- 画面: 9～14 インチ

iPadOS

- OS: iPadOS
- ストレージ: 32 GB 以上
- メモリ: 4 GB 以上
- 画面: 10.2～12.9 インチ

3 OS 共通仕様

- 無線 IEEE 802.11 a / b / g / n / ac 以上
- LTE 通信対応も可
- Bluetooth 接続できないハードウェア キーボード
- 音声接続端子: マイク・ヘッドフォン端子
- 外部接続端子: 1 つ以上
- 本端末を学習者用コンピュータとして適切に運用するための端末管理ツール

保証

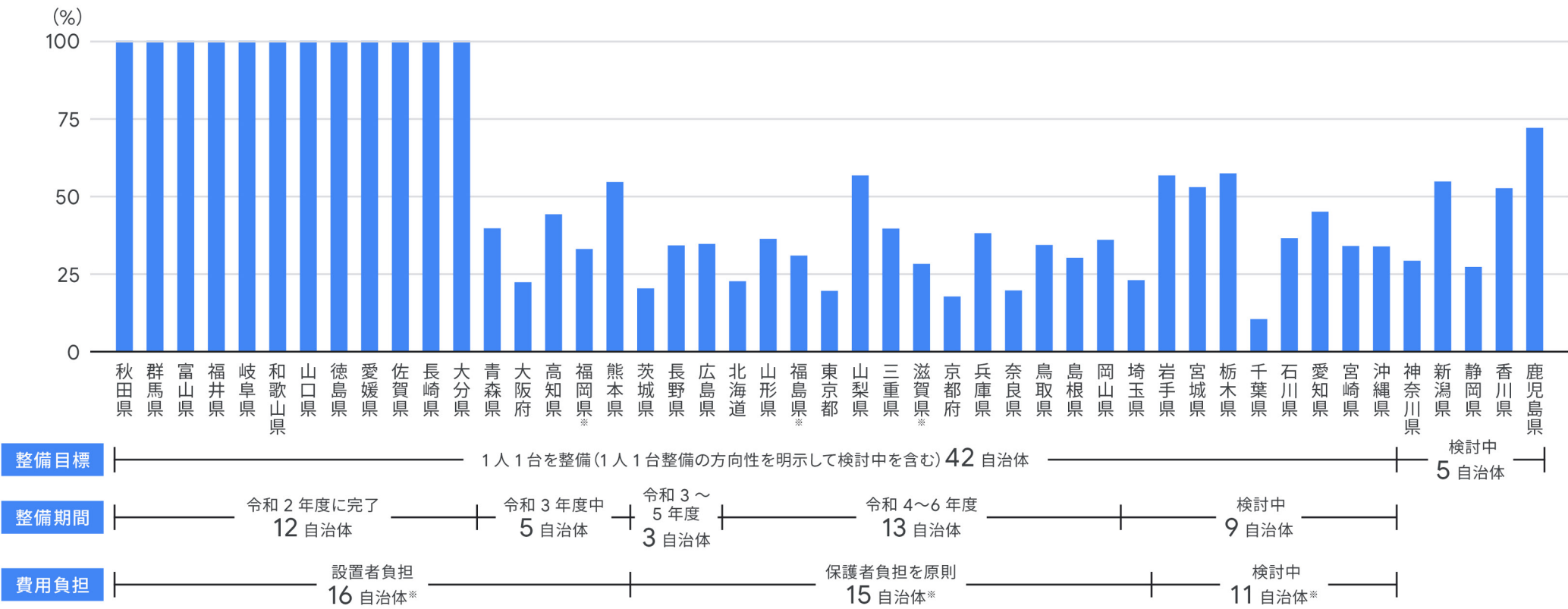
- 原則 1 年
- センドバック方式 (2 週間程度で返却)
- 端末不調時の予備を常備



令和 2 年度末の高校端末の見込整備状況

地方自治体既整備分 約 89 万台（約 46%）

（令和 3 年 3 月見込み）



※ 福島県、滋賀県、福岡県は、費用負担については検討中

（備考）
・ 都道府県立の公立高校のみ
・ 見込整備状況は、令和 2 年度の公立高等学校の生徒数と令和 2 年度の見込整備台数の割合
令和 2 年度の見込整備台数（令和元年末の整備台数+令和 2 年度の新規整備予定台数）

引用: [GIGA スクール構想における高等学校の学習者用コンピュータ等の ICT 環境整備の促進について（令和 3 年 3 月 12 日）](#)

Index

P 7 1人1台端末の整備について

P 14 教育用アプリについて

P 18 ICT 研修 / 支援員について

P 22 現状のネットワーク整備について

P 27 今後のネットワーク整備について

P 32 その他、ネットワークについて

P 35 Google for Education について

調査概要

調査内容	端末や ICT 環境整備状況の調査	実施期間	2020 年 10 月 20 日（火）～ 2020 年 12 月 25 日（金）
調査対象	高等学校の ICT 環境整備に関わる方 （有効回答数：1,629 件）	調査方法	Web アンケート調査 / FAX / 電話によるヒアリング

1人1台端末の整備について

端末環境整備や機種選定において 公立校では「自治体」が担当、私立校では「学校」が担当で進めている高校が多く、端末予算の調達においては公立校では「自治体」、私立校では「保護者負担」で進めているケースが多数となりました。私立校では学校が機種選定を行い、保護者が予算を負担する BYAD * モデルが進んでいることが伺えます。

—

「生徒1人1台の計画」に関して、私立校では 87% が、公立校では 47% が進めている結果となりました。

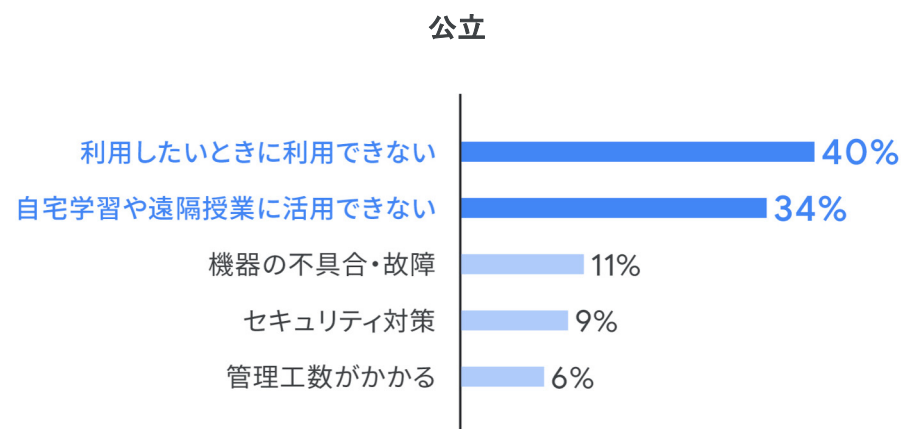
「生徒1人1台」の計画を進めている公立校においては「整備開始時期」は 2020 年度が 45%、

「整備終了時期」は 2020 年度が 30% と最も多く回答されており、

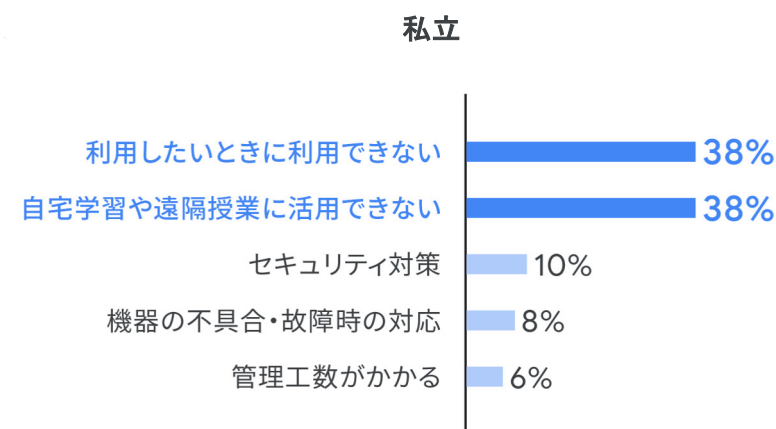
文部科学省からの要請で多くの学校が短期間内での整備完了を目指していることが伺えます。

生徒1人1台端末の未整備による問題点・課題点として、公立・私立校ともに、「利用したいときに利用できない」「自宅学習や遠隔授業に活用できない」に**約70%以上**が該当すると回答。

生徒1人1台の端末が整備されていないことによる問題点や課題点（複数回答）



n = 1,077



n = 845

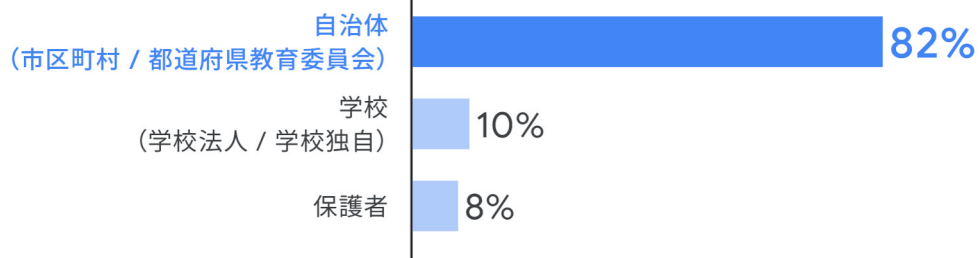
結果

公立・私立校ともに、「利用したいときに利用できない」「自宅学習や遠隔授業に活用できない」について、公立は74%、私立は76%が該当するとの回答でした。新型コロナウイルス感染拡大防止による教育現場でのオンライン授業等の需要増もあり、生徒1人1台端末利用の必要性の高さが感じられる結果となりました。その他、「機器の不具合・故障」「セキュリティ対策」「管理工数がかかる」など、運用・管理面の課題も挙げられました。

公立校において機種選定や調達、予算の調達は
「都道府県教育委員会」が担当となって進めている高校が約80%と最も多い回答となった。

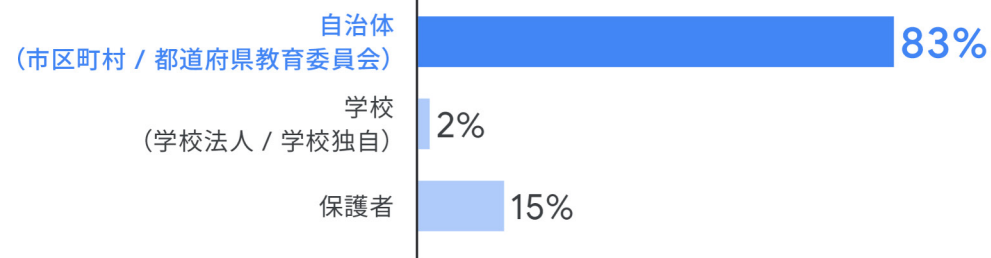
機種選定や端末の調達団体と予算調達の担当

機種選定・調達団体



n = 1,077

予算調達



n = 1,077

結果

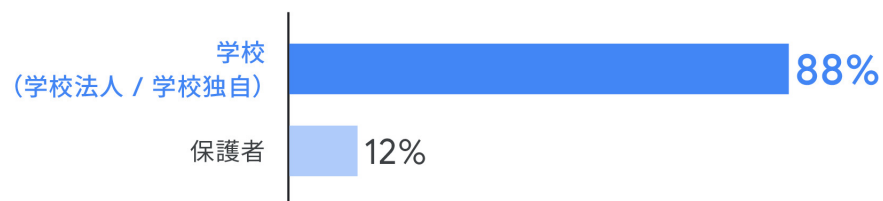
公立校における環境整備は、主に都道府県教育委員会が担当となって決めている学校が多く、端末の機種選定や予算の調達においても教育委員会の判断で進めている学校が多数を占めています。

私立校において機種選定や調達は「学校独自」で進めている高校が約90%、
予算の調達は「保護者負担」が約60%と最も多い回答となった。

機種選定や端末の調達団体と予算調達の担当

機種選定・調達団体

予算調達



n = 542

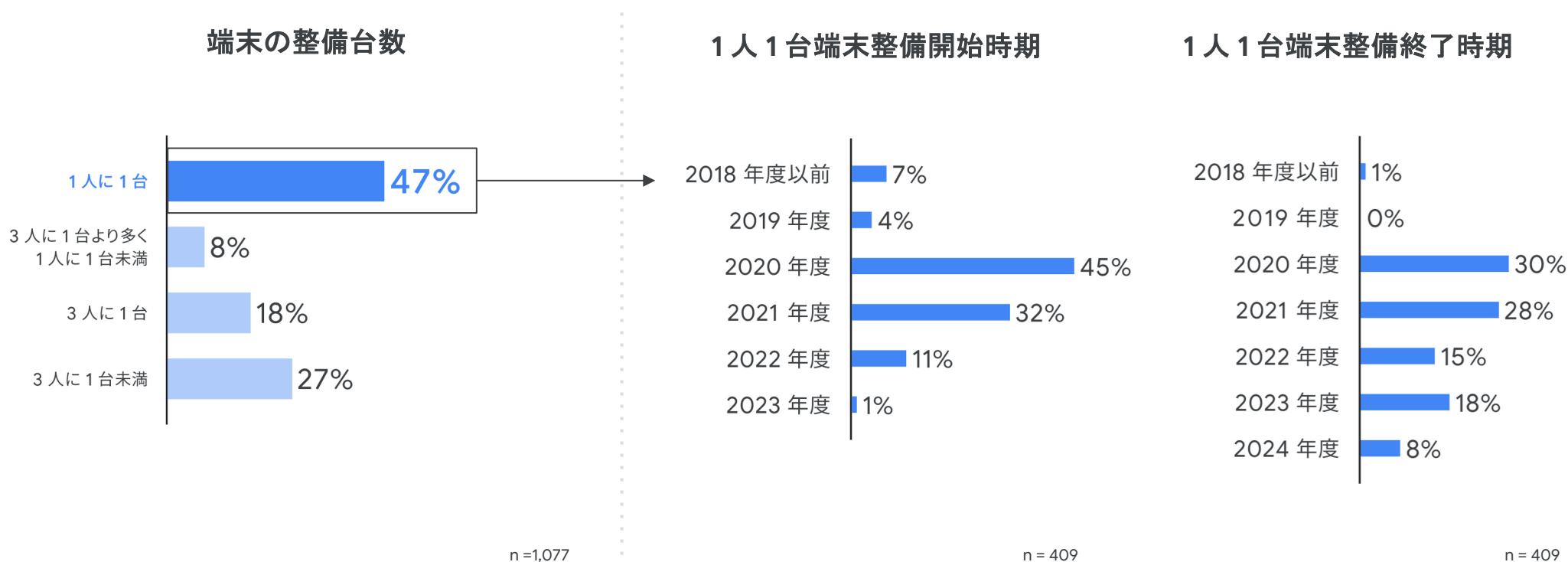


n = 542

結果

私立校における環境整備は「学校独自」で進めている高校が多く、端末の機種選定や予算の調達においても学校の判断で独自に進めています。
また、予算調達は「保護者負担」としている私立校が多く、私立では学校が機種選定を行い、保護者が予算を負担する BYAD モデルが進んでいることが伺えます。

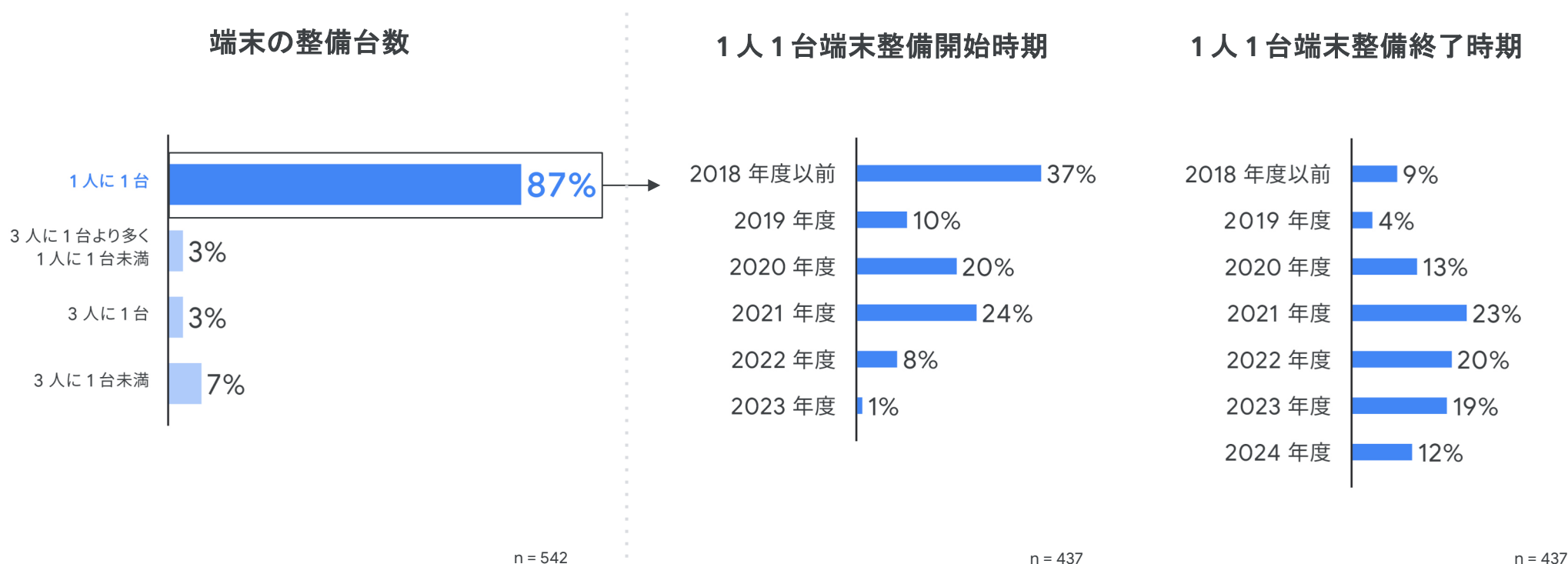
「生徒1人1台端末」を予定している約50%の公立校では、端末整備開始は「2020年度」予定が45%、
端末整備終了時期は「2020年度」予定の30%が多い結果となった。



結果

公立校では47%が「生徒1人1台」の計画を進めている結果となりました。具体的な時期について、端末整備開始時期で最も多いのは「2020年度」予定が45%、2番目に「2021年度」予定が32%でした。端末整備終了時期について最も多いのは「2020年度」予定が30%、「2021年度予定」が28%と回答しており、多くの学校で短期間内での整備完了を目指していることが伺えます。

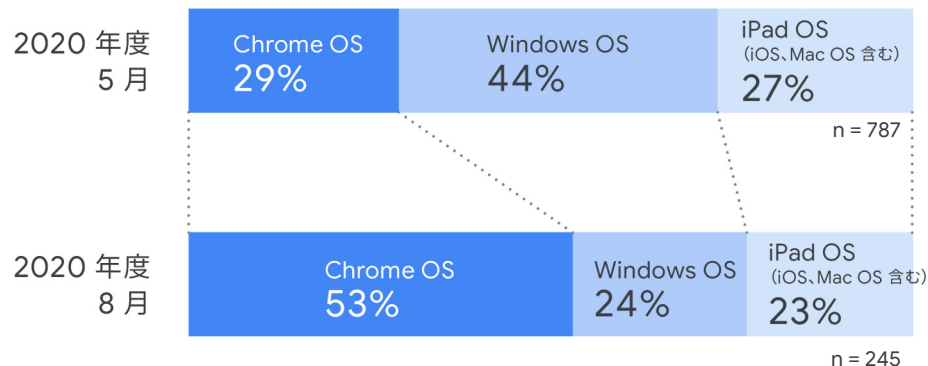
「生徒1人1台端末」を予定している約90%の私立校では、約40%が「2018年度以前」に端末整備を開始しており、端末整備終了時期は「2021年度～2023年度」がほぼ横並びとなった。



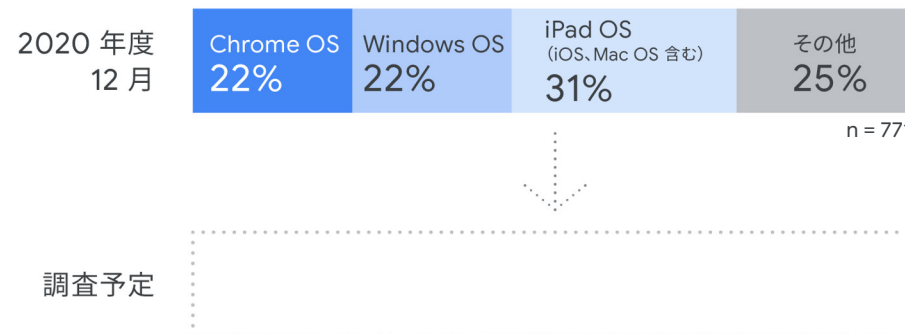
結果

私立校では、87%が「生徒1人1台」を計画しており、整備開始時期について37%が「2018年度以前」と回答、また整備終了時期については「2021年度～2023年度」がそれぞれ約20%となっており、「2018年度以前」から取り組まれている分、整備終了時期に関しては、ばらついている傾向が見られました。

小・中学校における OS 検討調査結果



高校における OS 検討調査結果



高校における OS の選定理由 (複数回答) (公立・私立合算)

Chrome OS 選定理由 n = 337

- 第 1 位: 運用管理が容易である
- 第 2 位: 生徒が活用しやすい
- 第 3 位: 導入・構築が容易である
- 第 4 位: 教員が活用しやすい
- 第 5 位: セキュリティ ポリシーに合致する

Windows OS 選定理由 n = 338

- 第 1 位: 教員が活用しやすい
- 第 2 位: 生徒が活用しやすい
- 第 3 位: 利用したいソフトウェアが動作する
- 第 4 位: 導入・構築が容易である
- 第 5 位: 運用管理が容易である

iPad OS 選定理由 n = 365

- 第 1 位: 生徒が活用しやすい
- 第 2 位: 教員が活用しやすい
- 第 3 位: 運用管理が容易である
- 第 4 位: 利用したいソフトウェアが動作する
- 第 5 位: 導入・構築が容易である

小・中学校では 2020 年 5 月時点では Chrome OS の利用検討率は 29% でしたが、8 月時点の OS 選定率は 53% にまで上がりました。既存・既知の OS が「活用しやすい」といった検討理由が多く挙がりましたが、Chrome OS では「運用・管理のしやすさ」に加え、「コストの安価さ」が挙げられました。

教育用アプリについて

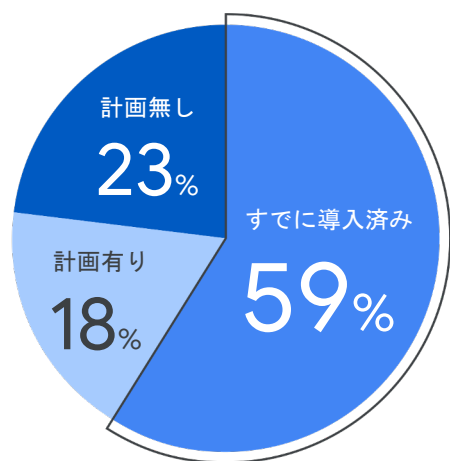
公立校では **77%**、私立校では **89%** が**教育用アプリ**を「**導入済み**」もしくは「**計画をして**」おり、
利用中（予定）のグループウェアは **Google Workspace for Education** が約 **50%** と最も多く**導入**されています。

—

選定理由としては「**教員・生徒の活用のしやすさ**」が最も多く、
次いで「**トータルコストが無料・廉価**」が多数となっており、コストメリットだけでなく、
現場での活用のしやすさが重要な選定基準となっています。

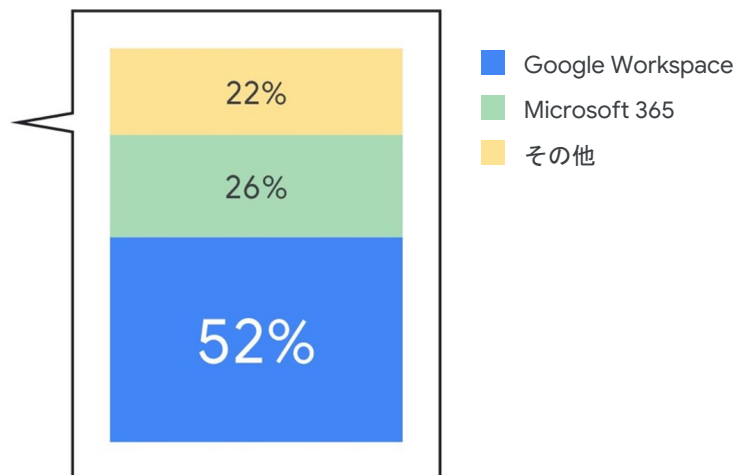
教育用アプリを「すでに導入済み・計画有り」は約 80% となり、
「Google Workspace for Education」（以下 Google Workspace）のシェアが 50% 以上。
選定理由は「活用のしやすさ」や「コストメリット」が挙げられた。

教育用グループウェアの活用計画



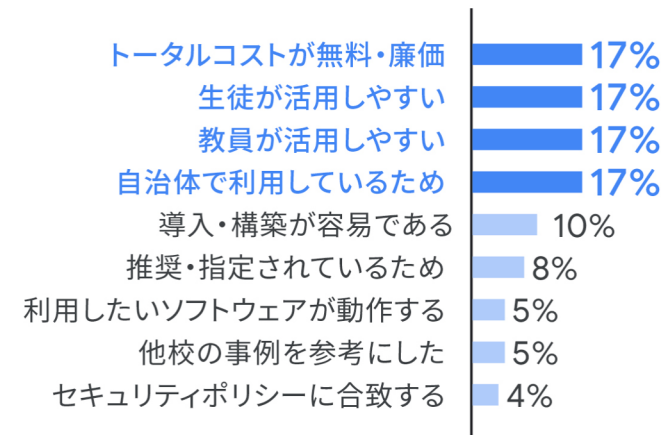
n = 1,077

利用中（予定）のグループウェア



n = 516

グループウェア選定理由 （複数回答）



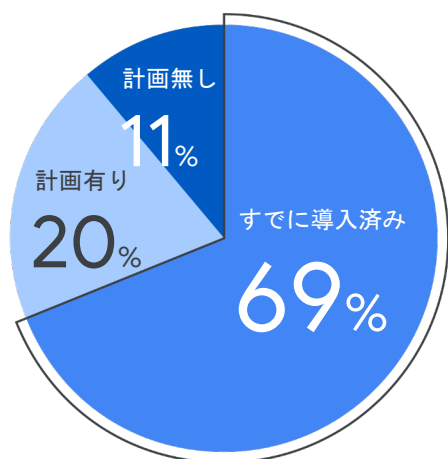
n = 516

結果

公立校において、教育用アプリはすでに 77% が「導入済み」もしくは「計画をして」おり、利用中（予定）のグループウェアは「Google Workspace」が 52% と最も多く導入されています。選定理由としては「教員・生徒の活用のしやすさ」「トータルコストが無料・廉価」「自治体で利用しているため」が多数となっており、コストメリットや実際の利用のしやすさが選定基準となっていることが伺えます。

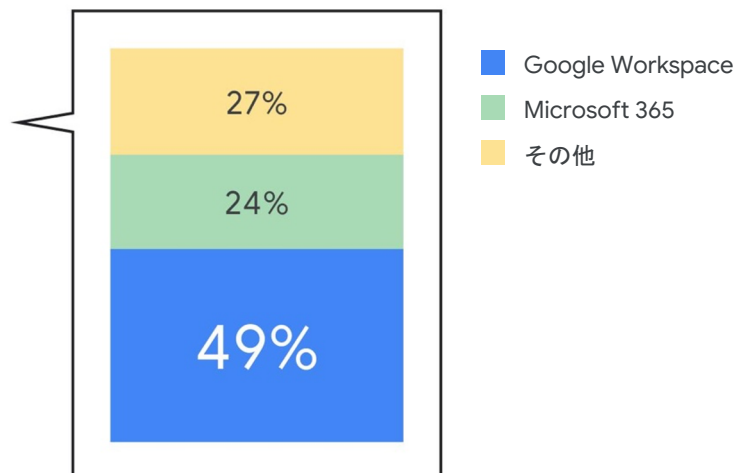
教育用アプリを「すでに導入済み・計画有り」は**約 90%** となり、
「Google Workspace」のシェアが**約 50%** となった。
選定理由としては**「活用のしやすさ」**が多い回答となった。

教育用グループウェアの活用計画



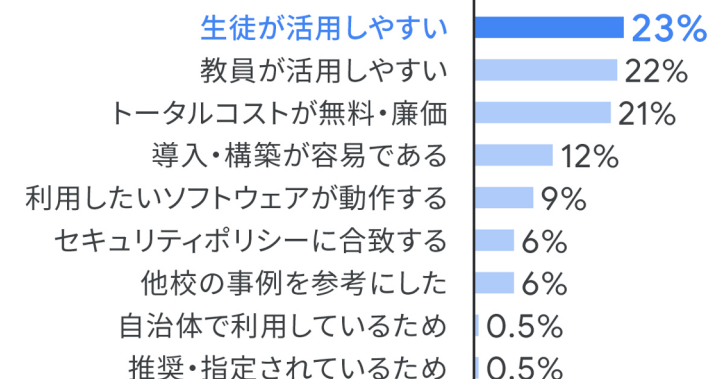
n = 542

利用中（予定）のグループウェア



n = 351

グループウェア選定理由 (複数回答)

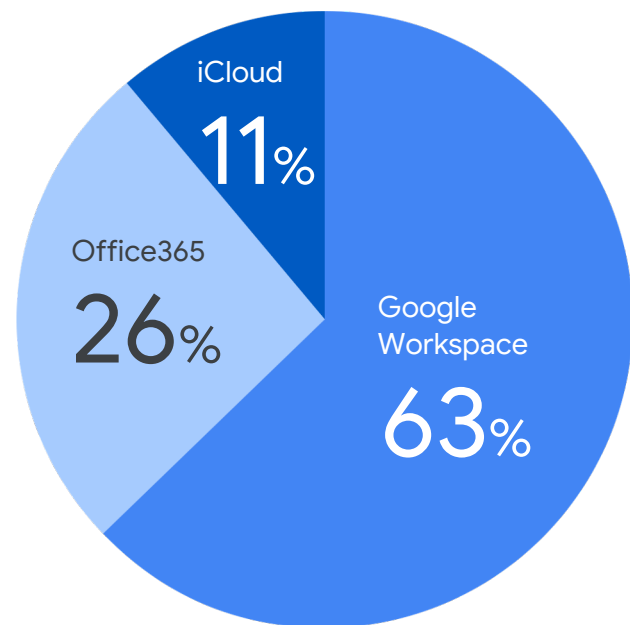


n = 351

結果

私立校において、教育用アプリはすでに 89% が「導入済み」もしくは「計画をして」おり、利用中（予定）のグループウェアは「Google Workspace」が 49% と最も多く導入されています。選定理由としては公立校と同じく「教員・生徒の活用のしやすさ」が合計で 45% と多く、次いで「トータルコストが無料・廉価」が 21% となっており、コストメリットだけでなく、現場での活用のしやすさが重要な選定基準となっています。

すでに多くの都道府県で ICT 環境整備の検討が行われており、
その中で Google Workspace のツールの導入・活用も進んでいます。



n = 304

都道府県における Google Workspace のツールの導入率

63%

※ Google 調べ
「教育委員会向け GIGA スクール構想リサーチ 2020」



続きは「[高校にも！？GIGA スクール構想](#)」で
詳細な事例をご覧ください。



goo.gle/giga2

小・中学校の学習用プラットフォームでは、Google Workspace が約 60% 以上選ばれています。

ICT 研修 / 支援員について

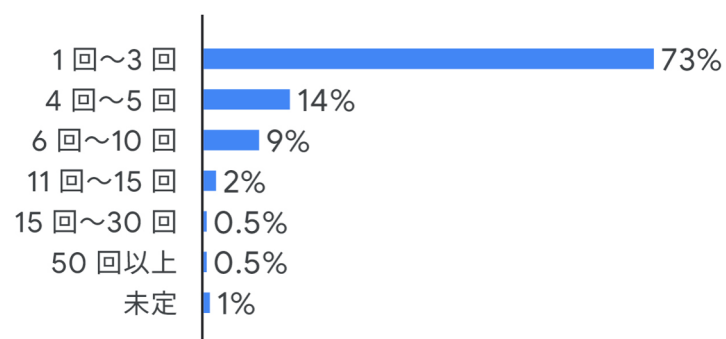
ICT に関する研修回数については、公立・私立校ともに「年間 3 回以下」が 70% 以上を占めました。
研修内容としては「ツール利用」が最も多く約 40%、次いで「IT リテラシーなど全般的な内容」が約 30% となり、
ツールに慣れることを目的とした、基礎的な内容での研修をおこなっていることが伺えます。

—

ICT 支援員の常駐については、「設けていない」が 80% を超え、支援員不足の問題も伺えます。
また、求める支援内容として「ICT 活用方法の提案」や「運用・管理・保守」、「故障・トラブル対応」と
端末選定でも検討すべき内容への回答が多く、支援員と端末選定の重要性はさらに高まると予想されます。

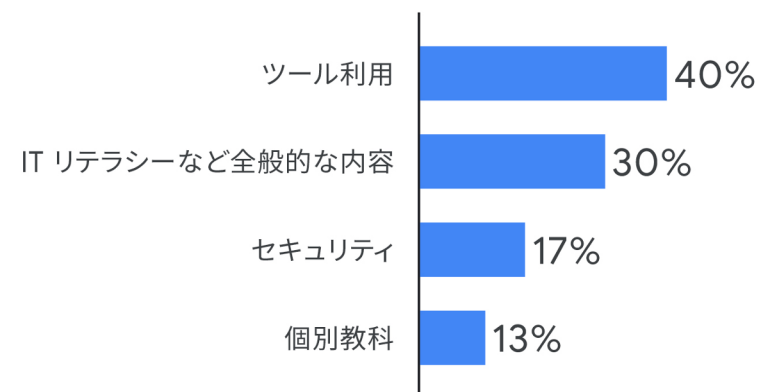
ICT に関する研修は公立・私立校ともに **70% 以上**が「**年間 3 回以下**」となっており、
研修内容としては「ツール利用」が最も多く、**40%** となった。

ICT 支援員による年間の研修回数
(公立・私立合算)



n = 794

研修内容（複数回答）
(公立・私立合算)



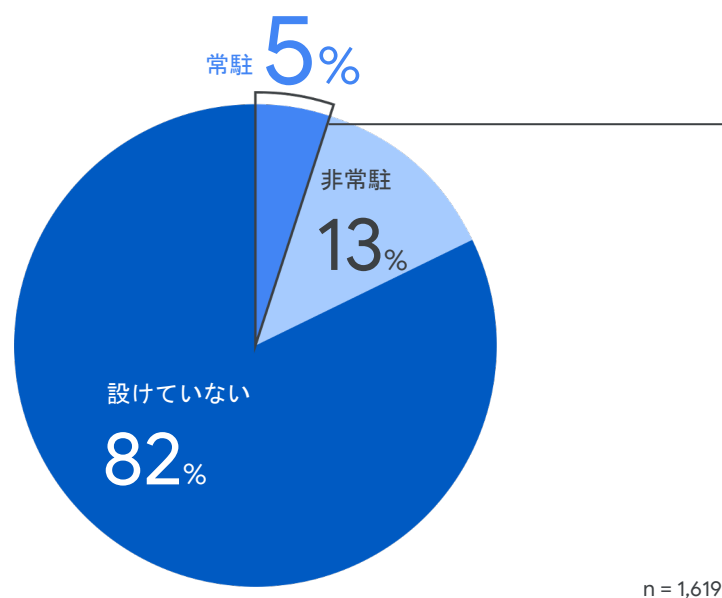
n = 794

結果

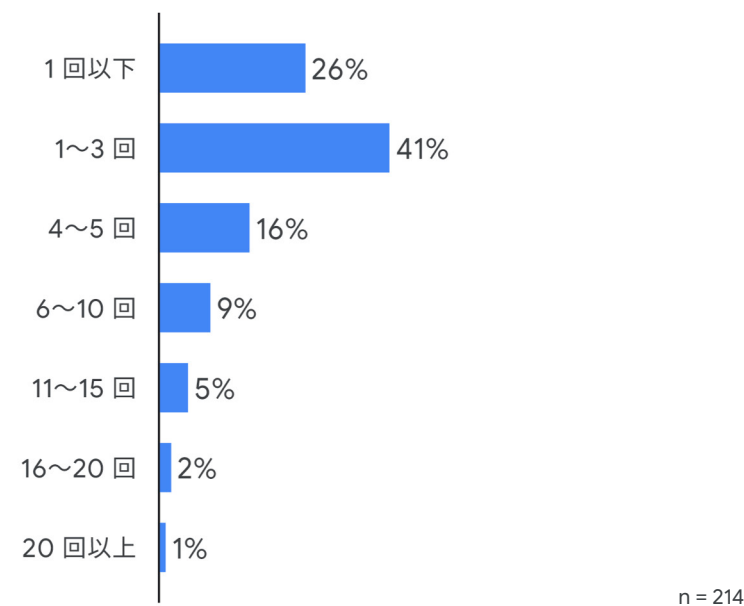
ICT に関する研修回数については、公立・私立校ともに年間 3 回以下が 73% となり、研修内容としては「ツール利用」が最も多く 40%、
次いで「IT リテラシーなど全般的な内容」が 30% となり、ツールに慣れることを目的とした、基礎的な内容での研修をおこなっていることが伺えます。

ICT 支援員の常駐は公立・私立校ともに**約 80% が設けておらず**、
ICT 支援員の活用は**約 60% 以上**が「**月に 3 回以下**」という結果となった。

ICT 支援員の常駐有無（公立・私立合算）



ICT 支援員の 1 ヶ月の活用頻度（公立・私立合算）

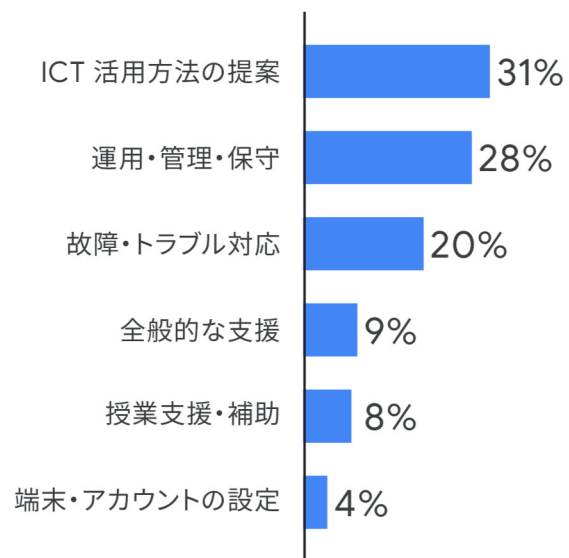


結果

ICT 支援員の常駐について「設けていない」が 80% を超える結果となりました。また常駐していると回答した学校での活用回数について、3 回以下との回答が半数を超えました。ただし、p. 21 の結果にもあるように、支援へのニーズは高く、今後、ICT 支援のプロとして支援員の必要性はさらに高まると予想されます。

ICT 支援員に対する具体的な希望支援内容は「**ICT 活用方法の提案**」や「**運用・管理・保守**」といった日常的に活用される内容が多く挙げられた。

ICT 支援員に希望する支援内容（公立・私立合算）



n = 1,250

結果

ICT 支援員に求める支援内容として「ICT 活用方法の提案」や「運用・管理・保守」が最も多く、ICT に精通したスキルが求められる結果となりました。

現状のネットワーク整備について

ネットワーク設備の導入時期は、公立・私立校ともに **2018 年以前の導入が最も多く**、
教育委員会主導である公立校においては **「無線 LAN」は 26%**、
学校独自での整備が可能な私立校では **「無線 LAN」は 61%** であり、
校内ネットワーク接続における数値の差が見受けられました。

—

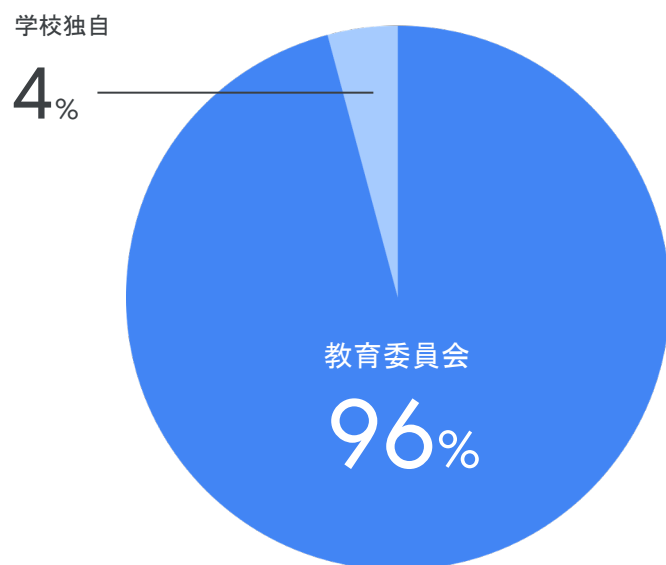
また、**端末の持ち帰りを想定した LTE の利用は私立校 5% の一方、公立校では 0%** でした。

—

インターネット接続回線について、公立校では**校務用は「行政系ネットワーク」、**
学習用は「センター集約型学習系ネットワーク」の利用が多く、
私立校では**校務用と学習用ともに学校個別回線の利用が 90% に上りました。**

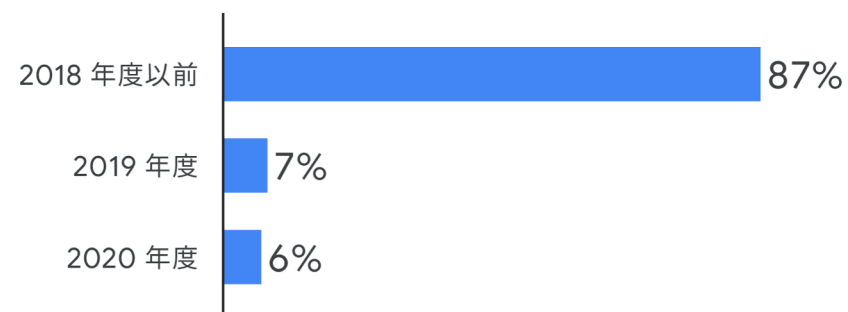
公立校では、**96%** が「教育委員会」主導でネットワーク整備を行っており、ネットワークの導入時期は「2018 年度以前」が **87%** と最も多い回答となった。

学校で利用しているネットワークの整備方法



n = 1,077

現在利用中のネットワーク導入時期



n = 135

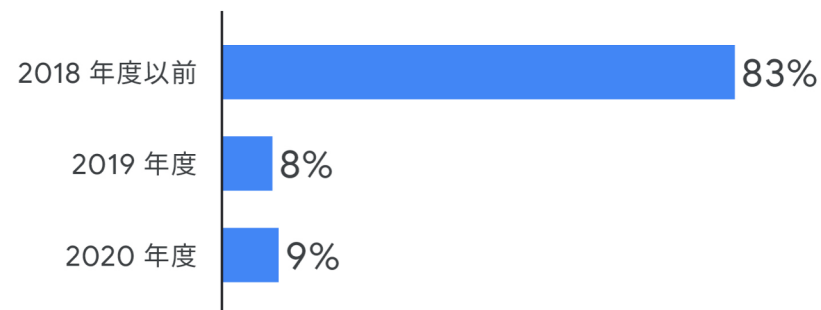
ほぼすべての私立学校が「学校独自」でネットワーク整備を行っており、ネットワークの導入時期については「2018 年度以前」の回答が多数を占めた。

学校で利用しているネットワークの整備方法



n = 542

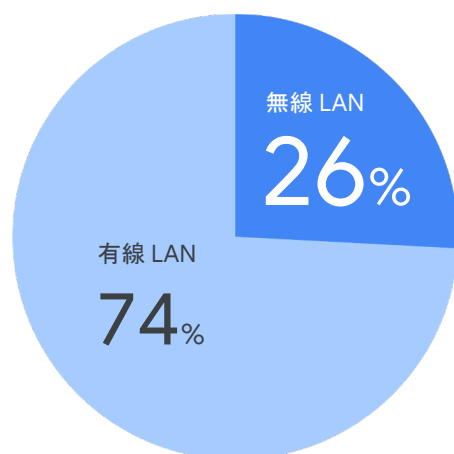
現在利用中のネットワーク導入時期



n = 517

公立校では、現状の校内ネットワークの利用について「LTE」の利用はなく「有線 LAN」が **74%** と最も多くなった。インターネットの接続方法については校務用は「行政系ネットワーク」、学習用は「センター集約型学習系ネットワーク」の利用が多い回答となった。

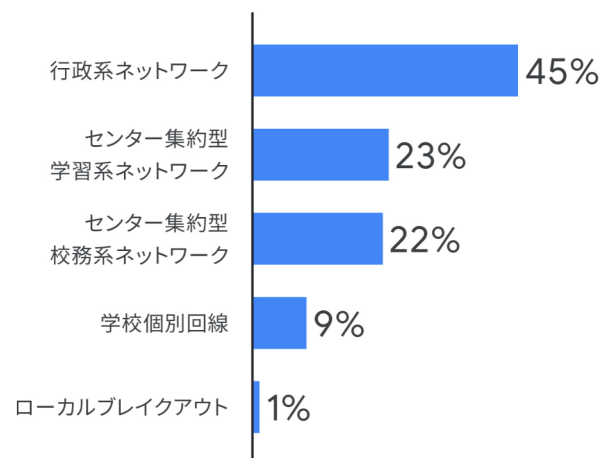
現在利用中の
校内ネットワークの接続方法



n = 96

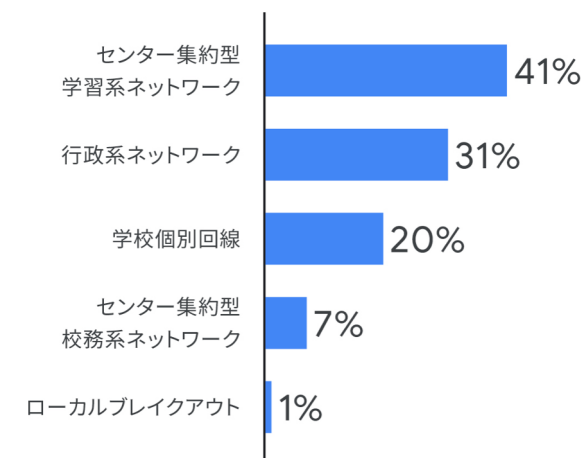
現在利用中のインターネット接続回線（複数回答）

「校務用」インターネット接続方法



n = 68

「学習用」インターネット接続方法

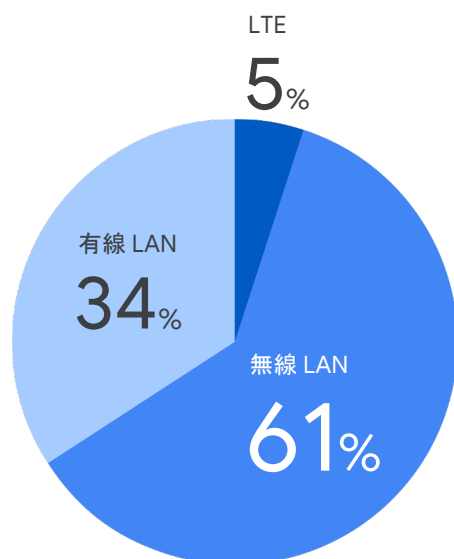


n = 66

私立校では現状の校内ネットワークの利用について、
「無線 LAN」が **61%**、次いで「有線 LAN」が **34%** となった。

インターネットの接続方法については、校務用と学習用ともに「学校個別回線」の利用が **90%** に上った。

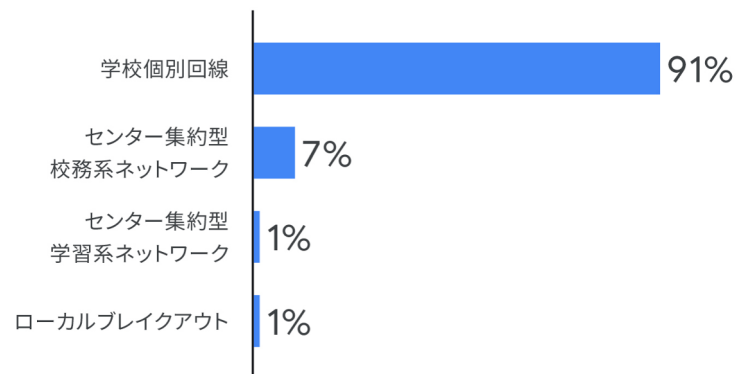
現在利用中の
校内ネットワークの接続方法



n = 262

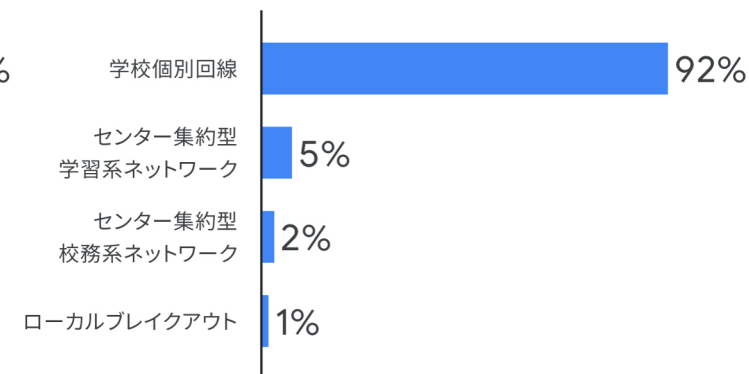
現在利用中のインターネット接続回線（複数回答）

「校務用」インターネット接続方法



n = 190

「学習用」インターネット接続方法



n = 192

今後のネットワーク整備について

公立校では、現在の回線を引き続き利用する学校もありますが、「無線 LAN を計画中」が 64% となっており 1 人 1 台の端末利用への準備のために、有線 LAN から無線 LAN への学校ネットワーク環境の移行をするとの回答が見受けられます。

—

私立校においては、現在の回線（無線 LAN）を引き続き利用が最も多い中、「通信の安定性」を重視した整備を行っており、端末の持ち帰りを想定した LTE の利用が見受けられました。

今後、学校教育におけるネットワーク / 端末整備において
場所にとらわれない端末の持ち帰りを前提としたネットワークの整備が進むと考えられます。

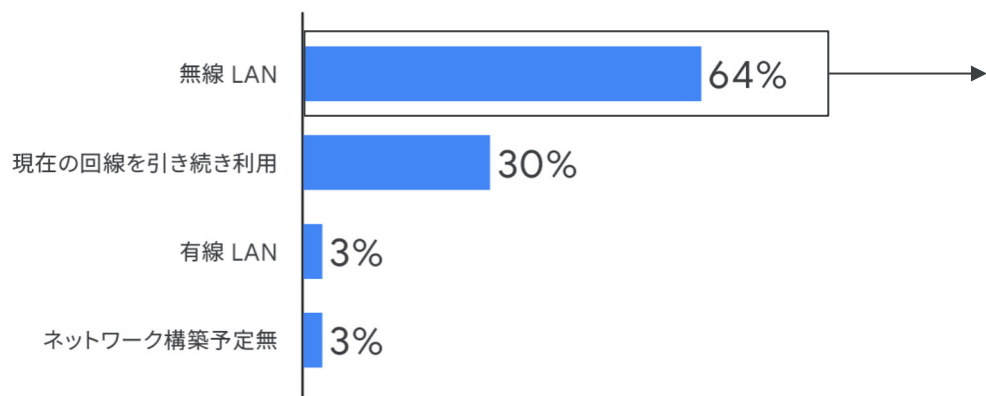
—

インターネット接続回線については、前項の「現状のネットワーク整備について」と同様の結果となりました。

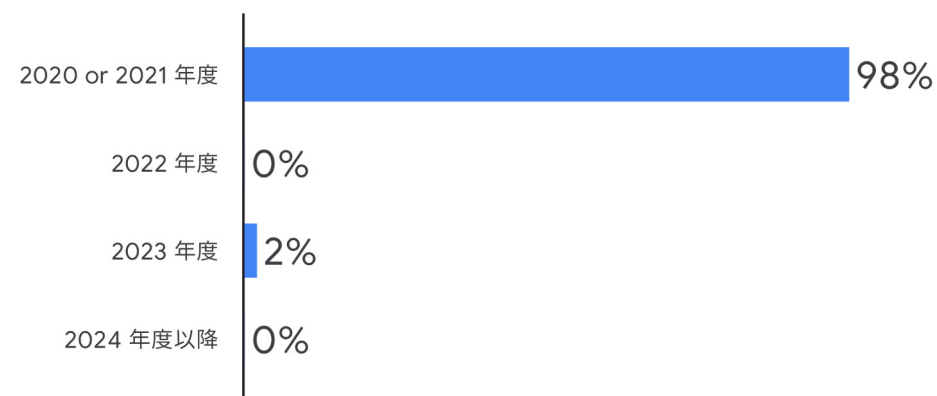
公立校では計画中の校内ネットワークの接続方法について、
「有線 LAN」「現状維持」「構築予定なし」が 30% を超えた。 無線 LAN におけるネットワークの
整備完了時期については**ほとんどが「2020 年度もしくは 2021 年度」**となった。

ネットワーク接続方法の整備計画

ネットワーク接続方法



n = 143

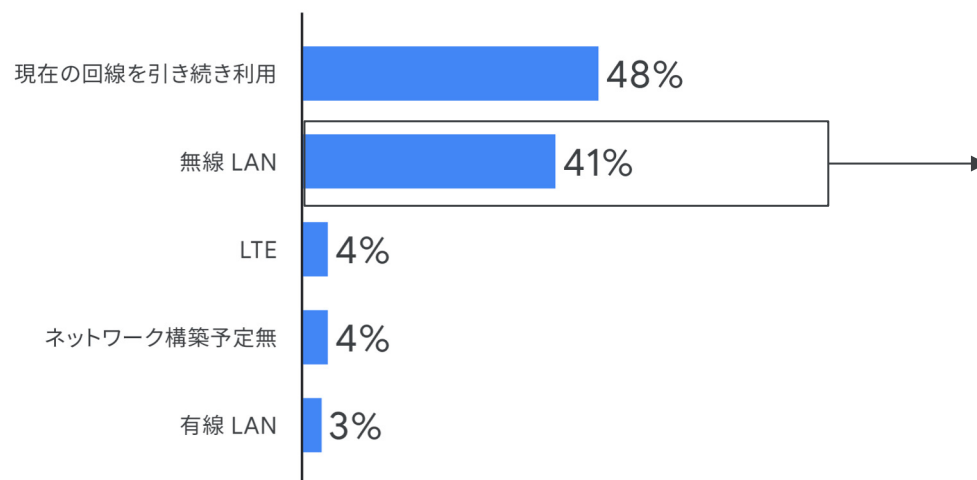
無線 LAN における
ネットワーク整備完了時期

n = 66

私立校では計画中の校内ネットワークの接続方法について、「**現在の回線の継続利用（無線 LAN）**」
「**無線 LAN**」がともに**約 45%** となり、「無線 LAN」におけるネットワークの整備完了時期については
「**2020 年度もしくは 2021 年度**」が**約 80%** となった。

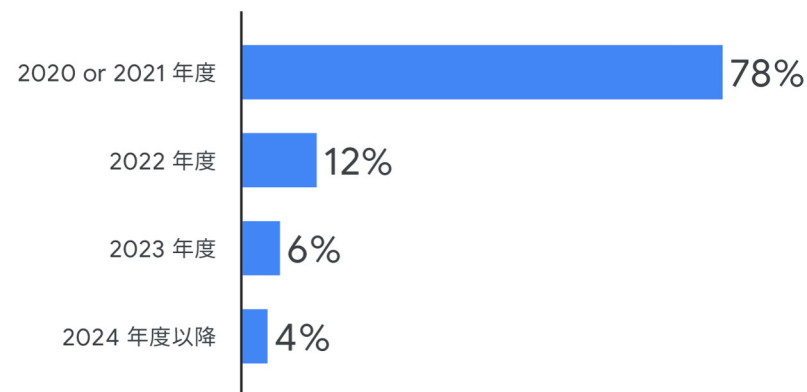
ネットワーク接続方法の整備計画（複数回答）

ネットワーク接続方法



n = 545

無線 LAN における
ネットワーク整備完了時期

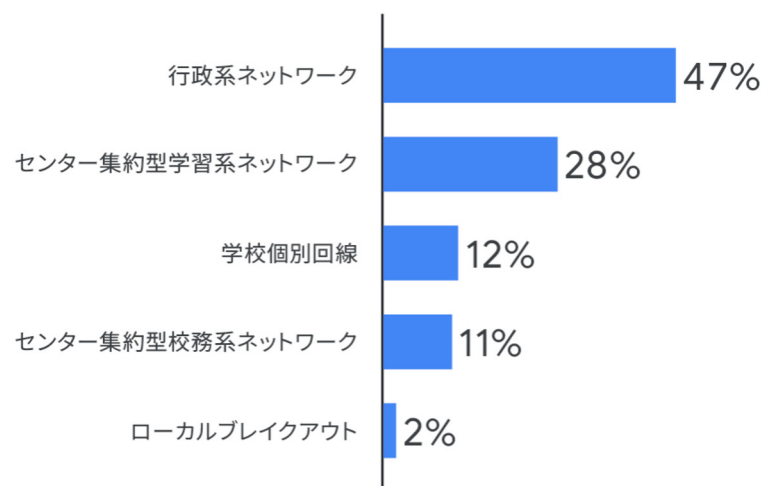


n = 153

公立校におけるインターネットの接続方法については、**校務用は「行政系ネットワーク」**を、**学習用は「センター集約型学習系ネットワーク」**を計画しているとの回答がそれぞれ**約 50%**となった。

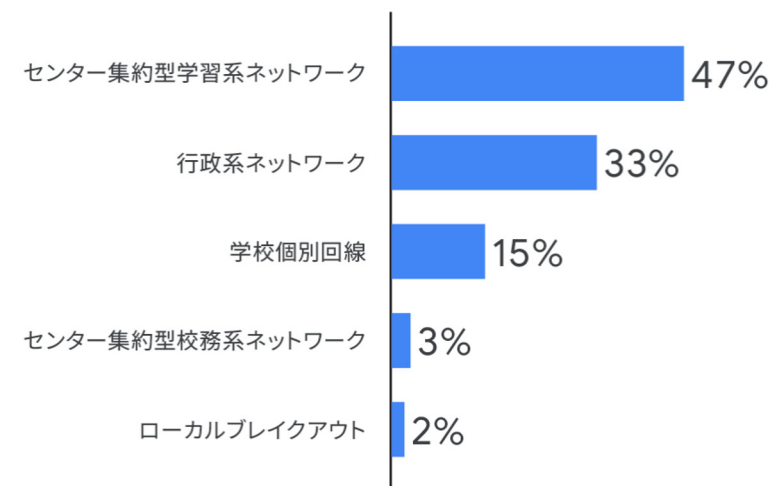
インターネット接続回線の整備計画（複数回答）

「校務用」インターネット接続方法



n = 68

「学習用」インターネット接続方法

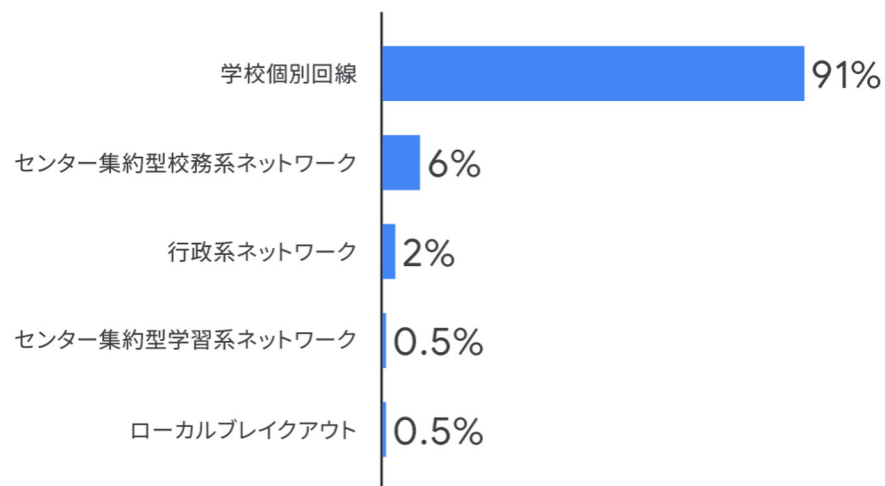


n = 66

私立校におけるインターネットの接続方法については、多くの高校が校務用と学習用ともに「学校個別回線」と回答しており、それぞれ **90% 以上** となった。

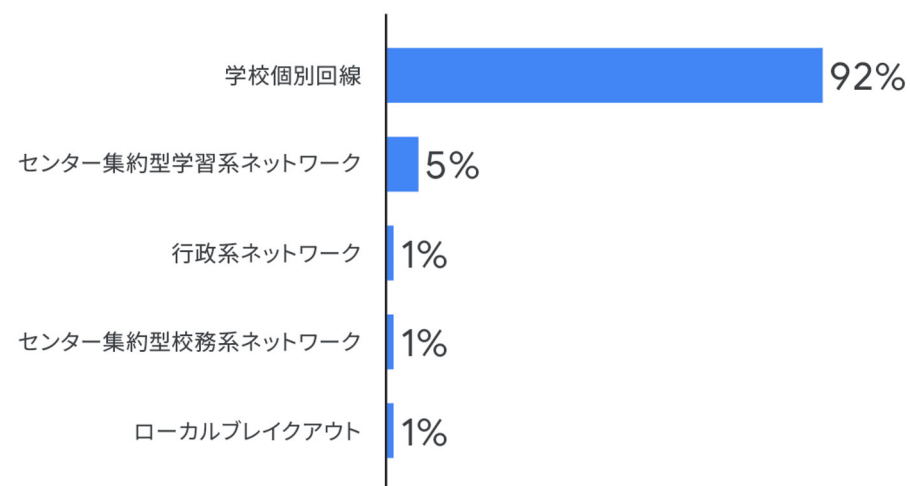
インターネット接続回線の整備計画（複数回答）

「校務用」インターネット接続方法



n = 191

「学習用」インターネット接続方法



n = 193

その他、ネットワークについて

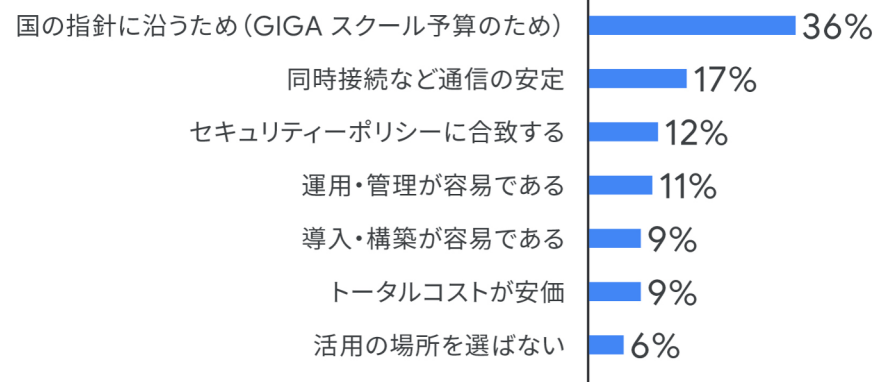
公立校のネットワーク選定理由は「国の指針に沿うため（GIGA スクール予算のため）」との回答が 36% となっており、「生徒1人1台整備」に向けたネットワークの準備を推進しています。

—

私立校のネットワーク選定理由については「通信の安定性」の利用時の快適さの他に「コスト」「導入・構築」「運用・管理」など多岐にわたる基準が挙げられました。

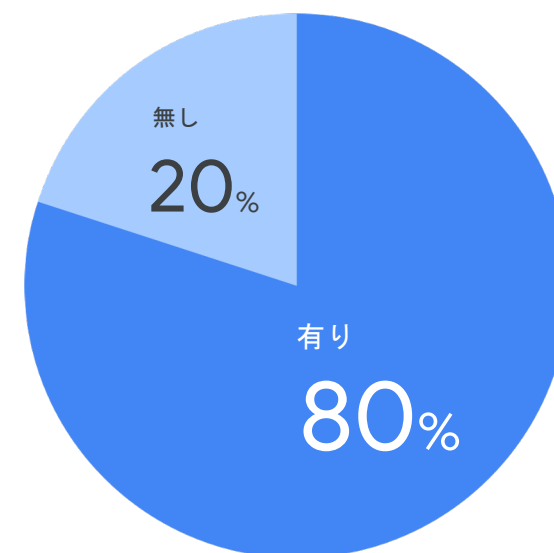
公立校ではネットワークの選定理由について「国の指針に沿うため（GIGA スクール予算のため）」の回答が最も多く **36%** となった。またネットワーク制限については **80%** が「制限有り」と回答した。

校内ネットワークの選定理由（複数回答）



n = 200

個人情報保護条例等によるネットワーク制限の有無

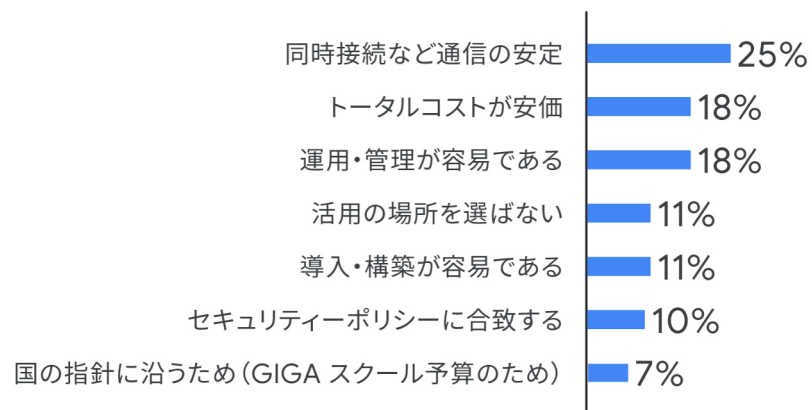


n = 109

私立校のネットワーク選定理由については、「同時接続など通信の安定」の利用時の快適さの他に「コスト」「導入・構築」「運用・管理」など多岐に渡る基準が挙げられた。

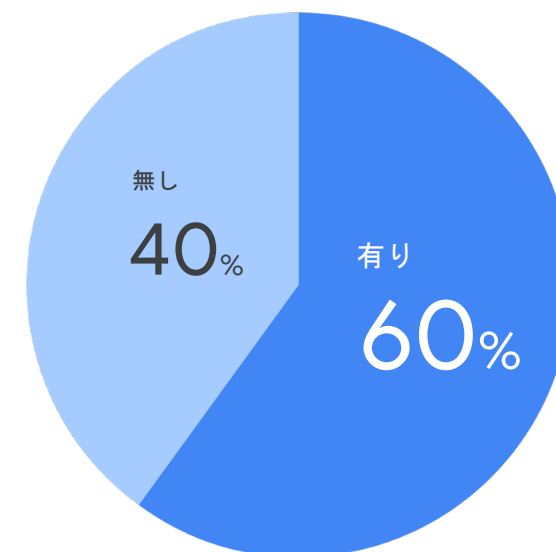
また、ネットワーク制限については、**60%**が「制限有り」と回答した。

校内ネットワークの選定理由（複数回答）



n = 1,061

個人情報保護条例等によるネットワーク制限の有無



n = 511

Google for Education について

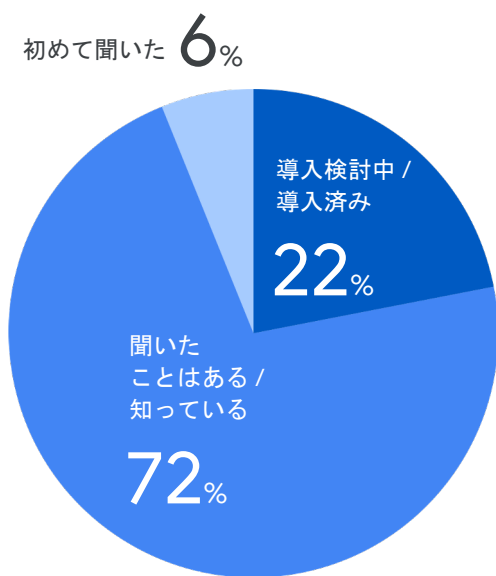
Chromebook の認知割合は 94% で、そのうち 22% が「導入済み」「導入検討中」となりました。
また Chromebook に対する興味内容として、特に「教育特化」や「機能面」「コスト面」が多く、
コストメリットだけではなく機能面でも高い注目を得ていることが分かりました。

—

Google GIGA School Package については「Google Workspace for Education」の興味関心が最も高くなりました。
また、1人1台端末の整備にあたり「教員の端末の活用スキル」に対して課題を感じるという回答が多い中で
Kickstart Program の興味内容は「教育研修」が 40% となっており、
教育者の ICT 活用へ向けてのニーズが顕著に現れる結果となっています。

Chromebook を認知している割合は **94% 以上** となり、
興味内容としては「コストメリット」や「機能（起動時間）/ 端末単価」「教育特化」が多い回答となった。

Chromebook の認知（公立・私立合算）



n = 1,619

Chromebook に対する興味内容 TOP 5 （複数回答）（公立・私立合算）

第 1 位：コストメリット

第 2 位：機能（起動時間）/ 端末単価

第 3 位：教育特化

第 4 位：セキュリティ

第 5 位：機能（長時間稼働）（共有が容易）

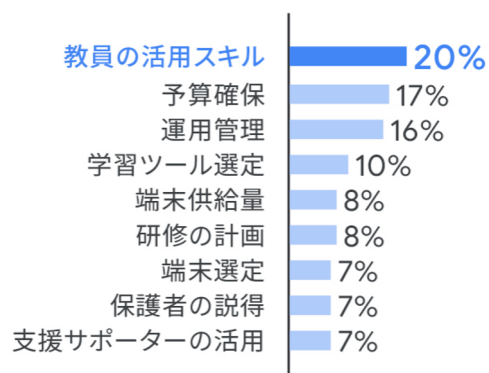
n = 1,045

結果

Chromebook は 94% 以上認知されている結果となりました。また Chromebook に対する興味内容として、特に「コストメリット」や「機能（起動時間）/ 端末単価」「教育特化」が多く、コストメリットだけではなく機能面でも高い注目を得ていることが分かりました。

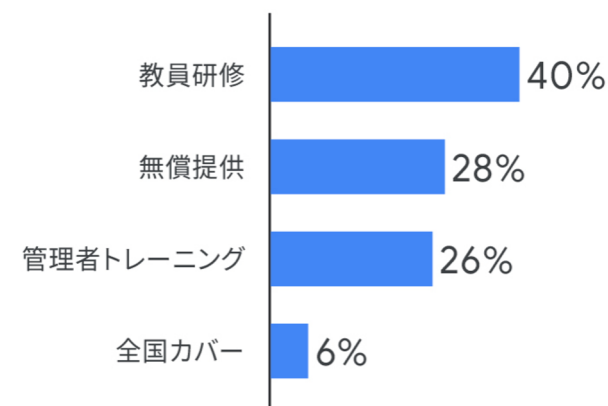
「生徒1人1台端末」整備にあたり想定される課題として、「教員の活用スキル」が最も多い回答となった。
また Kickstart Program * に対する興味内容は「教育研修」が **40%** となっており、
教育者の ICT 活用へ向けてのニーズが顕著に現れる結果となった。

「生徒1人1台端末」の整備にあたって想定される課題 (複数回答) (公立・私立合算)



n = 1,619

Kickstart Program * に対する興味内容 (複数回答) (公立・私立合算)



n = 1,506

* Google for Education が提供する
無償の研修プログラム

結果

「生徒1人1台端末」の整備にあたり、教員の端末の活用スキルに対して課題を感じるという回答が多く、教育現場での運用管理やツールの活用方法などの課題が浮き彫りになりました。教員のための研修が重要視されていると考えられます。

Google for Education